令和７年度長崎県保健医療対策協議会がん対策部会
胃がん委員会　議事録

日時：令和８年２月６日（金）１８：３０～２０：００
場所：長崎県庁　３階　３１１会議室
委員：江口委員長、金高委員（WEB)、上戸委員、林委員、木田委員、水田委員、山根委員

（１）がん検診に係る各目標指標について
〇事務局より、資料１及び参考資料１について説明

委 員 長：内視鏡による精密検査の受診率は全国と比べて高く、非常に良い状況ではないだろうか。
事 務 局：内視鏡は一次検診と精密検査が同時に行えるため、結果として受診率が高くなる側面があるからだと考えている。
山根委員：精検受診率は９割近くと高く、要精検率の数値も妥当であることから、精度管理ができていると評価できる。
木田委員：他のがん種にも関係するが、市町によって精検未把握率に大きな差があるが、個別検診と集団検診の違いなど、数値について分析しているか。
事 務 局：精検未把握率には報告誤りもあった。また、がん種別、市町別では、そもそも要精検者数が少ない市町もあり、１人の影響によって割合が大きく変わるため、ばらつきが生じている。
委 員 長：各市町との情報交換では、何か分かったことはあるか
事 務 局：受診勧奨方法など、市町ごとに異なっている。毎年開催している市町担当者向け研修会では、情報交換を行い、より効果的な取り組みを検討するよう促している。

（２）事業評価のためのチェックリストについて
〇事務局より、資料２及び参考資料２～８について説明

木田委員：事業評価のためのチェックリストの中で、「△」と「－」はどういった意味か？
事 務 局：「－」は未回答、「△」は調査日時点では実施できていないが、今年度中に実施予定の項目を示している。
江口委員：精度管理の評価結果は、いつ頃検診機関に届くのか。
事 務 局：令和６年度「がん検診の事業評価のためのチェックリスト」及び令和４年度検診に係る「プロセス指標値」の調査結果については、参考資料８に添付しているとおり、昨年８月に検診機関に対してフィードバックしている。

（３）長崎県内の乳がん検診の実績と精度管理について

〇事務局（健康事業団）より、資料３及び参考資料９について説明

金高委員：県全体の胃がん検診受診率が 4 割程度である中で、市町で実施されたがん検診受診率が 1 割程度という理解でよいか。また、今後は住民検診の受診率を上げていく必要があるということか。

事 務 局：住民検診の受診者は主に国民健康保険加入者が多いため、地方部で受診率が高くなり、都市部では低くなる傾向がある。都道府県ごとの数値は地域における職種構成の違いによって左右されることから、受診率が高くなることは望ましいものの、職域検診の影響を考慮する必要がある。

金高委員：現状ではＸ線の基準値が示されているが、本県では内視鏡による検診が多い。将来的には内視鏡の基準値が示されるのか。

事 務 局：本県の住民検診の内視鏡の割合は約８割だが、全国平均は 36%程度で、Ｘ線の割合が高い。九州でも内視鏡の割合は低く、佐賀県では約８％という状況である。

山根委員：以前は国が内視鏡を推奨しておらず、導入している自治体が少なかった。長崎市などでは 20 年以上前から取り組んでおり、受診者数も多い。国が内視鏡検診を推奨したのは比較的最近であり、九州の多くの市町村では導入からまだ時間が経っていない。

水田委員：山根委員がおっしゃるとおりで、今後は X 線から内視鏡へ移行していくと考えられる。ただし、高齢者など内視鏡に抵抗がある方もいるため、そうした方には引き続きＸ線が必要となる。

委 員 長：県として、何か問題点や補足はあるか。

事 務 局：鎮静を使用して内視鏡検診を希望する方が増えており、1 件あたりの所要時間が長くなることで、検診の枠が少なくなっているという問題があると感じている。

山根委員：Ｘ線をすべて内視鏡に切り替えるのは現実的ではない。内視鏡を実施できる医師の数が絶対的に不足してしまう。

上戸委員：ベッド数に余裕があれば問題ではない。

委 員 長：インシデントがなかった点は高く評価できる。毎年このように現状を把握し、動向を整理することが必要である。がん発見率・陽性反応的中率について、Ｘ線は基準を満たしていないようだがどうか。

木田委員：受診者も減少しているが、そもそも全国的に胃がんが減っていることから、Ｘ線のがん発見率が下がっており、基準を満たしにくくなっている。

委 員 長：そうであれば、基準値の見直しが必要ではないか。

木田委員：現在の基準値は高すぎると感じている。

山根委員：Ｘ線は内視鏡よりがん発見率が劣るのは当然である。

木田委員：以前はＸ線で進行がんが見つかっていたが、現在はほとんど見つからなくなっている。

（４）精密検査実施医療機関登録制度について

〇事務局より、資料４について説明

山根委員：登録された医療機関側からすると、活用されていないのはどうなのだろうか。

事 務 局：一覧は昨年度末に初めて取りまとめたもので、今年度が初年度であった。そのため、まだ活用していない市町が多い状況です。登録数が少ないから活用しない、ということにならないよう、市町には積極的に活用をお願いしていきたい。

委 員 長：市町が独自に作成している一覧とは、何か違いがあるのか。

事 務 局：市町の一覧は、地域内で精密検査が実施できる医療機関を記載したものだと思われる。一方、県では一定の要件を満たした医療機関を登録しているので、その違いが分かるよう、より分かりやすい周知の仕方を検討していきたい。

委 員 長:ぜひ使ってもらえるように周知してもらいたい。

金高委員：登録要件を満たす医療機関と、満たさない医療機関の比較検討結果はあるか。

事 務 局：登録要件を満たす医療機関の方が、要精検率が低いとか、検査件数が多いなど、全てのがん種で総じて高い傾向があった。

金高委員：市町独自のリストより、精度管理がきちんとされたリストがあるので、軋轢もあるのかもしれないが、それを使ってもらったほうがいい。

山根委員：登録医療機関というのは、患者さんが見るためのリストである。将来的にＸ線を内視鏡に切り替えていくのであれば、内視鏡医を増やしていく必要がある。長崎市では現在、約 80 の医療機関が内視鏡検診をしているが、それらの医療機関に登録医療機関となってもらうことが先決である。全てが登録されていれば、その中から受診してもらえばよく、そのための周知が良いと思う。

事 務 局：今後も年２回程度案内を送り、追加登録を依頼していく。

水田委員：精密検査の際に「ここがいいですよ」と示せるよう、登録要件を満たす医療機関をさらに増やしていかないといけない。

事 務 局：一次検診と精密検査を同時に実施している医療機関にはすべて登録してもらうことが理想である。

委員長：また来年度以降も取り組みは続いていくわけであり、今後さらに洗練されていけばいいと思う。

（５）検診機関における要精検率について

〇事務局より、資料５について説明

委 員 長：事務局から提案があった令和 4 年度検診分での調査について、昨年度に引き続いて連名で調査を実施するということを、ここで認めるということでいいか。同様に調査を実施してよろしいか。

全 委 員：同意

上戸委員：精密検査の対象に、食道がんが含まれている可能性はないか。

事 務 局：食道がんを入れている可能性はある。胃がん検診では「胃がん疑い」を精密検査することになっているが、食道がんの所見なども一緒に含めてしまっている医療機関もあると思われるので、そういった点を確認するために調査を行っている。

（６）がん検診アンケート調査の解析について

〇資料６について事務局より説明。

委 員 長：「配偶者と同居」とはどういうことか。配偶者を通じて促すようなイメージか。

事 務 局：一般的にがん検診の受診率は女性が高いので、受診している側にアプローチすることで、受診していない側も受診につなげるということを期待している。

（７）その他（食道がんについて）

上戸委員：胃がんは減少しているが、食道がんは増えている印象がある。食道がん検診が対策型検診になっていないのはどうしてか。

事 務 局：食道がんは、先生のおっしゃる通り有用性はあると思うが、集団としての死亡率抑制のエビデンスが示されていないため、県独自で対策型検診とするのは難しい。

山根委員：がん発見率が高いと言われ続けているのに、死亡率が減らないと認められないのはどうか。内視鏡もエビデンスも出るのに何十年もかかる。

事 務 局：精密検査では、胃でも食道でも保険診療として扱えるので、そこは問題ない。医師が見つけた病変を適切に臨床で扱ってもらえればよい。

山根委員：自分の施設では食道がんは増えている印象がある。

金高委員：全国的にも徐々に増加傾向にあると思うし、食道胃接合部癌についても、増えてきているという印象を持たれている先生方が多いように感じる。全体として「食道癌」という括りでは増加しているのではないかと考えている。一方で、胃癌学会などでは「胃癌が減ってきているので、胃癌検診は不要になるのではないか」という議論が出ている状況である。しかし、もし検診体制が縮小してしまうと、今度は食道癌や、最近増加傾向にある十二指腸の早期癌などが発見されにくくなるのではないかと危惧している。

（８）その他（委員長の交代について）

委 員 長：今回から金高委員にも出席してもらっているが、委員長は専門である金高委員が適任ではないかと思う。次回から金高委員に委員長をお願いしてはどうか。

金高委員：ご承認いただけるのであれば精一杯尽力したい。

全 委 員：同意